# 青森県立高等学校教育改革推進計画に関する
# 地区意見交換会（下北）における主な意見

平成２９年２月１３日

# 目　次


１　下北地区の中学校卒業者数の推移と全日制課程の学級数の見込み..... 1

２　全日制課程の学校規模・配置に関する意見..... 2

（１）重点校、拠点校、地域校について..... 2

（２）委員の意見に基づく学校配置シミュレーション..... 3

ア　平成２９年度に生徒を募集する全ての高校を配置する場合..... 3
イ　むつ工業高校を拠点校として配置する場合..... 5
ウ　第１期実施計画期間中は大湊高校とむつ工業高校を統合して新設校を配置し、第２期実施計画期間中に大湊高校川内校舎を募集停止とする場合.... 7
エ　第１期実施計画期間中に大湊高校川内校舎を募集停止とする場合..... 9

（３）その他の意見..... 11

３　定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見..... 12

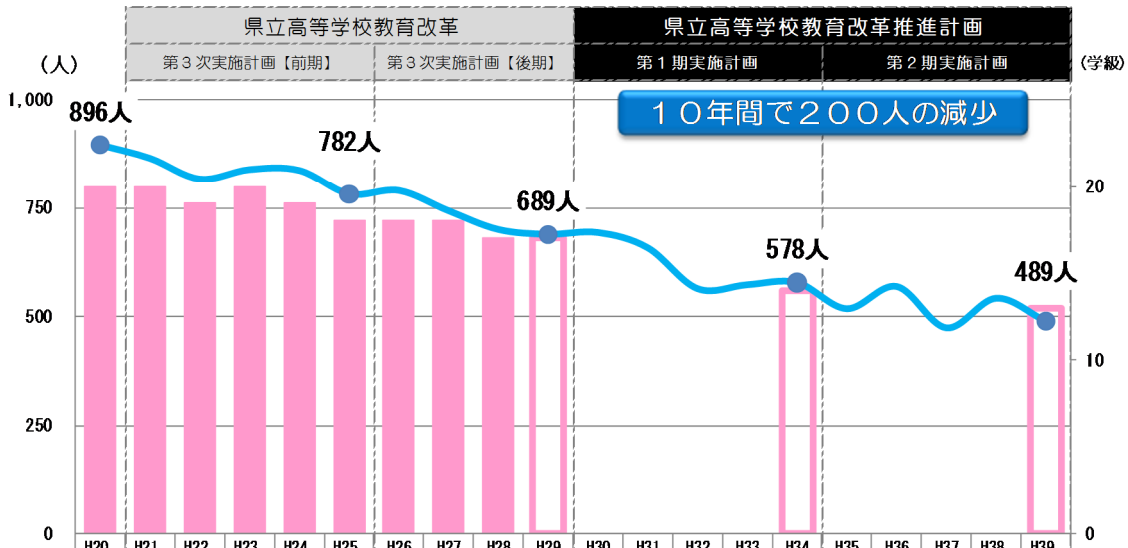
【参考１】委員名簿（下北地区）..... 13

【参考２】オブザーバー名簿（下北地区）..... 13

【参考３】地区意見交換会の開催状況（下北地区）..... 14

## １　下北地区の中学校卒業者数の推移と全日制課程の学級数の見込み

※中学校卒業（予定）者数は、各年３月。
　平成２９年度以降は、平成２８年５月１日現在の児童生徒数をもとに県教育庁高等学校教育改革推進室において推計。
※平成２９年度の学級数は、県立高等学校教育改革第３次実施計画【後期】によるもの。
　平成３０年度以降の学級数は、これまでの高等学校進学率、他県・他地区との流出入等の状況を勘案し、算出。




| （平成28年4月1日現在の学年） | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26（高3） | H27（高2） | H28（高1） | H29（中3） | H30（中2） | H31（中1） | H32（小6） | H33（小5） | H34（小4） | H35（小3） | H36（小2） | H37（小1） | H38 | H39 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 中学校卒業（予定）者数 | 896 | 865 | 817 | 839 | 837 | 782 | 790 | 743 | 700 | 689 | 693 | 658 | 564 | 573 | 578 | 518 | 569 | 474 | 542 | 489 |
| 学級数 | 20 | 20 | 19 | 20 | 19 | 18 | 18 | 18 | 17 | 17 | | | | | 14 | | | | | 13 |

| | H25までの増減（対H20） | H29までの増減（対H25） | H34までの増減（対H29） | H39までの増減（対H34） |
|---|---|---|---|---|
| 中学校卒業（予定）者数 | △114人 | △93人 | △111人 | △89人 |
| 学　級　数 | △2学級 | △1学級 | △3学級～△4学級 | △1学級～△2学級 |
| | | | △4学級～△5学級 | |

| | | | 第１期実施計画 | 第２期実施計画 |
|---|---|---|---|---|
| 試案における候補校 | | Ｈ２９ | Ｈ３４ | Ｈ３９ |
| 重点校 | 田名部高校 | ５学級 | △３学級（対 H29） | △４学級（対 H29） |
| 地域校※ | 大間高校 | ２学級 | | |
| 重点校等の合計 | | ７学級 | | |
| 連携校 | 大湊高校 | ５学級 | | |
| | むつ工業高校 | ４学級 | | |
| | 大湊高校川内校舎 | １学級 | | |
| 連携校の合計 | | １０学級 | | |
| 下北地区全体の合計 | | １７学級 | １４学級 | １３学級 |

※基本方針に定める地域校の方向性に基づき、２学級規模の地域校については、入学者数が４０人以下の状態が２年間継続した場合、原則として１学級規模とします。また、１学級規模の地域校については、募集人員に対する入学者数の割合が２年間継続して２分の１未満となった場合には、当該高校の所在する市町村等と募集停止等に向けて協議します。

## ２　全日制課程の学校規模・配置に関する意見

### （１）重点校、拠点校、地域校について

#### ①　重点校

○　重点校の学校規模の標準は１学年当たり６学級以上となっているが、学校運営を経験した立場として妥当だと考える。

○　選抜性の高い大学への進学に対応した学校は不可欠だと考えている。

○　下北地区で不足している医師の確保や選抜性の高い大学への進学を目指すため、下北地区には重点校が必要である。

○　下北地区の学校規模・配置は、現状がベストだと思うが、１学年５学級で重点校となる田名部高校については、教職員の加配をお願いしたい。

○　医師を志す高校生の教育環境への配慮として、単に重点校を配置するだけではなく、医学部進学コースの設置を含めた具体的な取組を示してほしい。

○　重点校を配置することにより、連携校にとってどのようなメリットがあり、どのように地区全体の教育環境の質の確保・向上につながっていくことになるのか、もう少し具体的な説明が必要である。地域や県民、生徒の理解が進めば、序列化にはつながらないと考える。

#### ②　拠点校

○　むつ工業高校は、原子力関連産業に多数の卒業生を送り出しているという実績があることから、個人的にはむつ工業高校が工業科の拠点校にならないものかと考えている。

○　むつ工業高校を拠点校としない場合、同校の位置付けが心配である。

○　重点校と拠点校の両方を配置することは、下北地区の学校数・学級数を考えると無理がある。むつ工業高校は、ものづくりや進路達成において大きな成果を上げており、様々な特色ある教育活動を展開していることから、連携校として、更なる充実に努めてほしい。

#### ③　地域校

○　大間町でも大学等への進学を考える保護者が増えており、地域校としての大間高校の役割は非常に重要だと考えている。

○　重点校と地域校が連携して取り組む体制を取り入れると、高い学力の生徒も大間高校で学習できると思う。

○　大間高校が募集停止となることは、北通り地域にとっては考えられないことであり、特段の配慮をお願いしたい。

○　基本方針の「募集停止等に向け」は過激な表現だと思う。例えば、「存続の可能性等について」という表現に修正してほしい。

○　２学級規模の地域校について、基本方針に「入学者数が４０人以下の状態が２年間継続した場合、原則として１学級規模とします。」とあるが、その後の中学校卒業者が増加する見込みであるならば、柔軟な対応をお願いしたい。

（２）委員の意見に基づく学校配置シミュレーション

ア　平成２９年度に生徒を募集する全ての高校を配置する場合

<table>
<tr><td rowspan="3"></td><td rowspan="2">第３次実施計画</td><td colspan="4">青森県立高等学校教育改革推進計画</td></tr>
<tr><td colspan="2">第１期実施計画</td><td colspan="2">第２期実施計画</td></tr>
<tr><td>Ｈ２９</td><td></td><td>Ｈ３４</td><td></td><td>Ｈ３９</td></tr>
<tr><td rowspan="3">重点校<br><br>連携校</td><td>田名部<br>５学級</td><td></td><td>田名部<br>５学級</td><td></td><td>田名部<br>５学級</td></tr>
<tr><td>大湊<br>５学級<br><br>むつ工業<br>４学級</td><td>△3学級<br>→</td><td>大湊<br>〇学級<br><br>むつ工業<br>〇学級</td><td>△1学級<br>→</td><td>大湊<br>〇学級<br><br>むつ工業<br>〇学級</td></tr>
<tr><td>川内校舎<br>１学級</td><td></td><td>川内校舎<br>１学級</td><td></td><td>川内校舎<br>１学級</td></tr>
<tr><td>小計</td><td>１５学級</td><td>△3学級<br>→</td><td>１２学級</td><td>△1学級<br>→</td><td>１１学級</td></tr>
<tr><td>地域校</td><td>大間<br>２学級</td><td></td><td>大間<br>２学級</td><td></td><td>大間<br>２学級</td></tr>
<tr><td>合計</td><td>１７学級</td><td>△3学級<br>→</td><td>１４学級</td><td>△1学級<br>→</td><td>１３学級</td></tr>
</table>

## ①　シミュレーションの基となった意見

○　小規模校も細やかな指導を続けており、将来の学校規模・配置から除かれることのないよう強く要望する。

○　基本的には現状維持の学校配置をお願いしたいと考えている。生徒数の減少が分かっている中、学校の小規模化が進むことは仕方がないことだと思う。

○　全ての学校を残すことを考えていきたい。

## ②　期待される効果等

○　現在の下北地区の学校配置は、バランスが良く、生徒の進路の選択肢が確保されていると考える。

## ③　更に検討を要する課題等

○　平成２９年からの５年間で下北地区の中学校卒業者数が約１００人減少することを踏まえると、学級減のみの対応で良いのかということを考えなければならない。

○　平成３９年度までに大湊高校とむつ工業高校を合わせて４学級の減となった場合、田名部高校以外は全て小規模校となってしまう。そのような状況で、子どもたちが夢や希望を持って高校生活を過ごすことができるのか。

○　現状の学校配置を維持することが一番良いと思うが、生徒数の大幅な減少への対応ということを考えると、現状の学校配置を維持することは難しいと感じた。

○　高校教育を受ける機会の確保のため、小規模校を配置する必要はあるが、全ての高校を配置すると、多くの高校が小規模化し、教育環境の充実が図られないことから、統合等による教育環境の充実を図りたい。

○　大湊高校川内校舎の生徒数が減少している中、教育活動の充実を図ることができるか危惧している。連携校の小規模化により開設科目数や部活動数が少なくなるため、高校としての魅力が薄れるのではないか。

イ　むつ工業高校を拠点校として配置する場合

| | 第３次実施計画 | 青森県立高等学校教育改革推進計画 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 第１期実施計画 | | 第２期実施計画 | |
| | Ｈ２９ | | Ｈ３４ | | Ｈ３９ |
| 重点校<br>拠点校<br>連携校 | 田名部<br>５学級<br>むつ工業<br>４学級<br>大湊<br>５学級<br>川内校舎<br>１学級 | △3学級<br>→ | 田名部<br>５学級<br>むつ工業<br>４学級<br>大湊<br>〇学級<br>川内校舎<br>〇学級 | △1学級<br>→ | 田名部<br>５学級<br>むつ工業<br>４学級<br>大湊<br>〇学級<br>川内校舎<br>〇学級 |
| 小計 | １５学級 | △3学級<br>→ | １２学級 | △1学級<br>→ | １１学級 |
| 地域校 | 大間<br>２学級 | | 大間<br>２学級 | | 大間<br>２学級 |
| 合計 | １７学級 | △3学級<br>→ | １４学級 | △1学級<br>→ | １３学級 |

### ①　シミュレーションの基となった意見

○　むつ工業高校は県の工業教育を牽引する拠点校となってほしい。

○　むつ工業高校には設備・エネルギー科があり、地元の産業に直結した学科があるという観点から、むつ工業高校を拠点校とすべきである。

### ②　期待される効果等

○　子どもたちがしっかり資格取得に取り組むことができ、自らが資格を持つことにより将来の道を切り開くことができる専門高校も、重点校と同様に必要だと思う。

○　地域に拠点校が存在することにより、地域産業への寄与が期待できる。

### ③　更に検討を要する課題等

○　むつ工業高校を拠点校とした場合、大湊高校と大湊高校川内校舎の学級減が非常に厳しくなってしまう。その場合、大湊高校における総合学科の役割が維持できるかどうか危惧している。

○　平成３９年度に大湊高校と大湊高校川内校舎を合わせて２学級となるが、質の高い高校教育を維持することができるのか危惧している。

○　大湊高校と大湊高校川内校舎を合わせた学級数が半減するということは、激変だと思う。

○　拠点校は、他校との連携が求められるため、地理的な条件とともに、工業高校であれば工業に関する専門学科を幅広く有していることも条件となる。更に、長期にわたって学科を継続して配置することも条件となる。むつ工業高校を拠点校とすることにより、平成３９年度に大湊高校と大湊高校川内校舎を合わせた学級数が２学級となり、現在の大湊高校で行われている教育活動がほとんどできなくなると思われる。田名部高校を重点校とする以上、むつ工業高校と大湊高校の統合を考えるべきだと思う。

ウ　第１期実施計画期間中は大湊高校とむつ工業高校を統合して新設校を配置し、第２期実施計画期間中に大湊高校川内校舎を募集停止とする場合

<table>
<tr><th rowspan="3"></th><th rowspan="2">第３次実施計画</th><th colspan="4">青森県立高等学校教育改革推進計画</th></tr>
<tr><th colspan="2">第１期実施計画</th><th colspan="2">第２期実施計画</th></tr>
<tr><th>Ｈ２９</th><th colspan="2">Ｈ３４</th><th colspan="2">Ｈ３９</th></tr>
<tr><td rowspan="3">重点校<br><br>連携校</td><td>田名部<br>５学級</td><td></td><td>田名部<br>５学級</td><td></td><td>田名部<br>５学級</td></tr>
<tr><td>大湊<br>５学級<br><br>むつ工業<br>４学級</td><td>△3学級<br>→</td><td>新設校<br>総合学科〇学級<br><br>工業科〇学級<br>６学級</td><td></td><td>新設校<br>総合学科〇学級<br><br>工業科〇学級<br>６学級</td></tr>
<tr><td>川内校舎<br>１学級</td><td></td><td>川内校舎<br>１学級</td><td>△1学級<br>→</td><td>川内校舎<br>募集停止</td></tr>
<tr><td>小計</td><td>１５学級</td><td>△3学級<br>→</td><td>１２学級</td><td>△1学級<br>→</td><td>１１学級</td></tr>
<tr><td>地域校</td><td>大間<br>２学級</td><td></td><td>大間<br>２学級</td><td></td><td>大間<br>２学級</td></tr>
<tr><td>合計</td><td>１７学級</td><td>△3学級<br>→</td><td>１４学級</td><td>△1学級<br>→</td><td>１３学級</td></tr>
</table>

① シミュレーションの基となった意見

○　総合学科と工業科は、下北地区において絶対に必要とされているため、生徒の進路の選択肢の確保という観点から、大湊高校とむつ工業高校の統合ということを検討していくことが必要だと思っている。

○　大湊高校川内校舎の配置について考えると、大湊高校とむつ工業高校の統合を視野に入れて考えていくのが良いと思う。

### ②　期待される効果等

○　大湊高校とむつ工業高校を統合すれば、イのシミュレーションのような過度な小規模化にはならないのではないかと思う。

○　大湊高校とむつ工業高校を統合することにより、相乗効果が期待でき、教育環境の更なる充実が図られる。

○　５０人の教員が配置されている高校が２つあるよりも、１００人の教員が配置されている高校が１つある方が、開設科目の自由度が高いと思う。総合学科と工業科が併設される場合、総合学科において工業系の科目を開設することも想定されるため、複数の大学科を有する高校は、非常に有益だと思う。

### ③　更に検討を要する課題等

○　新設校は、工業科の拠点校としてほしい。

○　新設校に関して、総合学科と工業科を併設する学校のアイデンティティーはどのようになるのか。大湊高校とむつ工業高校の統合後の姿がイメージできない。

○　大湊高校とむつ工業高校を統合した場合、新しい校舎を建設する場合とそれぞれの校舎を活用する場合があると思う。新しい校舎を建設する場合、校舎が使用できる状態になるまで時間を要することが想定される。

○　新設校をむつ工業高校の敷地に設置し、大湊高校川内校舎を募集停止とした場合、大湊地域・川内地域から高校がなくなることになることから、脇野沢地域・川内地域の通学環境に配慮しなければならない。

○　このシミュレーションでは、大湊高校川内校舎が第２期で募集停止となっているが、新設校の設置場所によっては同校舎を地域校として配置し、同校舎の募集停止の時期は、入学状況により判断してほしい。

○　大湊高校川内校舎の存続を望むが、仮に同校舎が募集停止となる場合は、脇野沢地域の中学生の学ぶ権利を保障するため、県教育委員会が主体的に様々な支援を検討してほしい。

○　大湊高校とむつ工業高校の統合に併せて大湊高校川内校舎を募集停止してはどうかと考えている。新設校の設置場所の決定や、通学支援の実施とともに、統合の時期についても検討してほしい。

○　平成２８年度の大湊高校川内校舎の入学者数は１３名だったが、今後の中学校卒業者数の減少を踏まえると、同校舎の入学者数が１桁となることも想定されるため、高校教育の質の確保の観点から、できるだけ早く同校舎の募集停止を検討した方が良いと思う。

○　大湊高校川内校舎の募集停止については、様々な方面に説明していくことが必要になると思う。特に、脇野沢地域に対しては、丁寧な対応が求められると考える。

### ④　その他

○　生徒の通学の利便性を考えると、新設校の設置場所は、むつ工業高校の敷地が優位だと思うし、むつ工業高校の設備を移転させることは多大な経費が必要になると思う。

○　新設校の設置場所は、脇野沢地域の生徒が通学できる場所が良いと思う。

○　中学生の進路の選択肢を確保する観点から、新設校の学科構成は、総合学科と工業科をそれぞれ３学級としてほしい。

エ　第１期実施計画期間中に大湊高校川内校舎を募集停止とする場合

<table>
<tr><td rowspan="3"></td><td rowspan="2">第３次実施計画</td><td colspan="4">青森県立高等学校教育改革推進計画</td></tr>
<tr><td colspan="2">第１期実施計画</td><td colspan="2">第２期実施計画</td></tr>
<tr><td>Ｈ２９</td><td></td><td>Ｈ３４</td><td></td><td>Ｈ３９</td></tr>
<tr><td rowspan="3">重点校<br>連携校</td><td>田名部<br>５学級</td><td></td><td>田名部<br>５学級</td><td></td><td>田名部<br>５学級</td></tr>
<tr><td>大湊<br>５学級<br>むつ工業<br>４学級</td><td>△2学級<br>→</td><td>大湊<br>〇学級<br>むつ工業<br>〇学級</td><td>△1学級<br>→</td><td>大湊<br>〇学級<br>むつ工業<br>〇学級</td></tr>
<tr><td>川内校舎<br>１学級</td><td>△1学級<br>→</td><td>川内校舎<br>募集停止</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>小計</td><td>１５学級</td><td>△3学級<br>→</td><td>１２学級</td><td>△1学級<br>→</td><td>１１学級</td></tr>
<tr><td>地域校</td><td>大間<br>２学級</td><td></td><td>大間<br>２学級</td><td></td><td>大間<br>２学級</td></tr>
<tr><td>合計</td><td>１７学級</td><td>△3学級<br>→</td><td>１４学級</td><td>△1学級<br>→</td><td>１３学級</td></tr>
</table>

### ①　シミュレーションの基となった意見

○　生徒数の減少を踏まえると、大湊高校川内校舎の存続は難しいと感じた。

### ②　期待される効果等

○　大湊高校川内校舎以外の選択肢が残るため、受検生の心理的負担が軽減される。

### ③　更に検討を要する課題等

○　大湊高校川内校舎の存続を望むが、仮に同校舎が募集停止となる場合は、脇野沢地域の中学生の学ぶ権利を保障するため、県教育委員会が主体的に様々な支援を検討してほしい。

○　第１期実施計画期間中に大湊高校川内校舎を募集停止し、第２期で大湊高校とむつ工業高校を統合した新設校を配置することが最良だと思う。

## （３）その他の意見

（学科等）

○　むつ工業高校は、現在募集している学科を維持してほしい。

○　むつ工業高校が拠点校ではないとしても、小学科として特色ある学科を設置し、子どもたちがしっかり先々のことを考え、資格取得できる環境が整備されていれば有り難い。

○　下北地区には、原子力関係の資格取得に取り組むことのできる環境が必要だと考える。併せて、放射線管理士等の資格取得に意欲がある普通科等の生徒に対する学習機会の確保もお願いしたい。

○　大間高校については、現在の２学級規模の中で漁業コースを設けることはできないものか検討する必要がある。

○　田名部高校英語科については、考えられる課題が解決したにもかかわらず、志望倍率が１．００倍を下回っていることから、同学科の在り方を検討しなければならないと思う。

（連携校等）

○　大湊高校川内校舎は、生徒数の減少により教員数が少なくなっているため、教員の負担が増加するとともに、教育課程の柔軟性が失われることを危惧している。しかし、同校舎は小規模である中、大変良い教育を施していることから、同校舎に対する教員の加配をお願いしたい。

○　地理的に離れている拠点校との連携についての環境を整備してほしい。

（生徒の通学）

○　スクールバスの費用について、保護者の負担が大きいことから、学校教育に関するバス運賃制度などについて国土交通省へ働きかけていくことも大事になってくる。

○　以前は、下北地区にも寄宿舎があり、北通り地域からむつ市内の高校に進学する生徒は、かなり救われていたように思う。今後は、生徒の通学手段を確保するためにスクールバスの運行等を検討し、高校に進学したいという夢を叶えてほしい。

○　市町村等との連携の下、通学環境がネックにならないよう寄宿舎の活用等を検討してほしい。

○　北通り地域は、どうしても通学環境がネックになってくると思う。大間高校は普通科しかないため、北通り地域からの通学環境を良くすることを考えてほしい。

○　高校への通学が困難な地域に配慮し、ボーディングスクール（全寮制の学校）を設置するなどの発想が必要だと思う。

（その他）

○　現在、本県の中学生の高校等進学率は約９９％であるが、高校の募集人員を削減した場合、進学率を維持できるか危惧している。

○　専門的な学習を深め実績を築いている高校生の活躍は、県が目指す未来を担う人財育成そのものだと思う。

○　学級減を前提に議論を進めているが、高校は義務教育ではないので他地区からの生徒を受け入れるなど学級減とならないようにするための議論も必要だと思う。他地区や他県から生徒を受け入れないと学級減になってしまうということを市民に周知してほしい。県教育委員会において、市民レベルで保護者や企業が真剣に議論する機会を設けてほしい。

○　町村部において中学校卒業者数を増やすことはかなり難しいと思っているので、視野を広げて全国募集してはどうかと考えている。

○　高校における特別支援教育に関して、特別な支援を要する生徒は、今後も増えることが予想されるため、国委託事業終了後の対応が各自治体任せとならないよう、十分な支援をお願いしたい。

○　本県は通学区域が県下一円であり、自由に高校を選択できる環境にあるので、県内の全ての学校が特色ある教育活動に取り組んでいることを発信し、生徒が幅広い選択肢を持てるようにしてほしい。

## ３　定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見

○　基本方針の方向性に賛同する。様々な事情を抱える生徒が高校教育を受ける機会として絶対に必要である。

## 【参考１】委員名簿（下北地区）

（敬称略）

| 区　分 | 所　属　等 | 委　員　名 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 市町村教育員会 | むつ市教育委員会　教育長 | 遠　島　　進 | |
| | 大間町教育委員会　教育長 | 佐　藤　　桂　一 | |
| | 東通村教育委員会　教育長 | 奥　島　　涼　子 | |
| | 風間浦村教育委員会　教育長 | 越　膳　　泰　彦 | |
| | 佐井村教育委員会　教育長 | 祐　川　　俊　樹 | |
| ＰＴＡ | むつ市連合ＰＴＡ　会長<br>（むつ市立むつ中学校ＰＴＡ　会長） | 二本柳　　信　行 | |
| | 下北郡連合ＰＴＡ<br>（大間町立大間中学校ＰＴＡ　会長） | 傳　法　　厚　史 | |
| | 青森県高等学校ＰＴＡ連合会<br>下北むつ地区協議会　会長<br>（県立むつ工業高等学校ＰＴＡ　会長） | 大　見　　竜　人 | |
| 産業界 | むつ商工会議所青年部　副会長 | 佐　藤　　俊　介 | |
| 小中学校長会 | 下北小学校長会　会長<br>（むつ市立第一田名部小学校　校長） | 長　内　　喜美穂 | |
| | 下北地方中学校長会　会長<br>（むつ市立田名部中学校　校長） | 阿　部　　謙　一 | |
| | 元県立むつ工業高等学校　校長 | 相　馬　　俊　二 | 進行役 |

## 【参考２】オブザーバー名簿（下北地区）

（敬称略）

| 所　属　等 | オブザーバー名 | 備　考 |
|---|---|---|
| 県立田名部高等学校　校長 | 三　戸　　延　聖 | |
| 県立大湊高等学校　校長 | 福　士　　広　司 | |
| 県立大間高等学校　校長 | 安　達　　健　夫 | |
| 県立むつ工業高等学校　校長 | 蝦　名　　博 | |
| 県立むつ養護学校　校長 | 川　口　　晃　世 | |

**【参考３】地区意見交換会の開催状況（下北地区）**

| 回 | 年月日 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 平成28年 9月16日 | ○学校規模・配置に関する意見発表 |
| 2 | 平成28年11月15日 | ○第１回地区意見交換会での意見等を踏まえた学校配置シミュレーションに関する意見交換 |
| 3 | 平成29年 1月23日 | ○地区意見交換会委員の意見に基づく学校配置シミュレーションにおいて想定される効果・課題等に関する意見交換 |